

2020 年度事業計画

基本方針

Verification and improvement 2020

国は、『2040 年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現』を目指している。具体的な政策課題として「多様な就労・社会参加」、「健康寿命の延伸」、「医療・福祉サービス改革」を掲げている。

本年、創立 65 周年を迎える日本歯科技工士会は、歯科技工士のナショナルセンターとして、これらの社会環境の変化も視野に入れた事業・政策が求められていることから、これまでの取り組みを「検証」し、不足を「改善」しながら、歯科保健医療に関わる専門職として、引き続き課題解決に向けて積極的に活動する。

1. 第 2 次中長期総合計画の検討

- 日本歯科技工士会の中長期総合計画である日技新発展『7』プランは、2019 年度末で 6 年間の実行期間が終了したことから、これまでの取り組みを検証する。
- 検証を経て、有用性の把握分析を行い、その評価結果を報告書に纏め、ホームページ等で公表する。
- その上で、次期中長期総合計画について検討し、公益法人としての矜持を持って組織運営及び組織改革に取り組む。

2. 公益社団法人としての円滑な会務運営

- 歯科技工士のナショナルセンターとして、公益事業を通してその存在を広く社会にアピールする。
- 定款改正の初年度となることから、遅滞なく、目的の 1 つである持続可能な会務運営に徹する。
- 公益目的事業と各事業部門の事業内容の「検証」と「改善」を検討する。

3. 歯科技工士の環境整備に向けた取り組み

- 歯科技工士の環境整備のための国の直轄事業を継続的に受託し、安定した事業運営と事後評価の活用を図る。
- 引き続きの課題である「製作技工に関する費用の考え方」、「歯科技工士基礎教育の年限延長」等についてセミナーの実績や報告書の内容を踏まえ、実現に向けて戦略的に取り組む。
- 環境整備の原動力として不可欠な組織拡充について、地域組織と情報を共有し、危機感をもって活動する。

なお、本年は創立 65 周年の節目の年にあたることから、『人生 100 年時代に活躍できる歯科技工士のあり方』を基調に、先達の英知と組織の歴史に思いを馳せ、次世代の活力となるような記念事業に取り組みたい。